地方独立行政法人 大阪市博物館機構 年報

【2024年度】

目　　次

ごあいさつ　・・ 1

I. 組織
Ｉ－（１）役員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ｉ－（２）沿革　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ｉ－（３）組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ｉ－（４）職員数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II. 大阪市博物館機構のあらまし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅲ. 大阪市博物館機構の事業
Ⅲ－（１）各館の主な事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅲ－（２）事務局の主な事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

IV. 各施設の活動
大阪市立美術館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
大阪市立自然史博物館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
大阪市立東洋陶磁美術館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
大阪市立科学館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
大阪歴史博物館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
大阪中之島美術館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

Ｖ. 資料
決算報告書　・・・ 18

Ⅵ. 大阪市博物館機構からのお知らせ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

ごあいさつ

2019年４月に設立された地方独立行政法人大阪市博物館機構は、歴史・美術から自然・科学に至るまで、テーマの異なる６つの博物館・美術館を一体的に運営する全国初の地方独立行政法人として設立され、６年間が経過しました。

2024年度は前年度に引き続き常設展および特別展ともに好調を維持し、多くのお客様にお越し頂くなど、充実した博物館活動が行えた１年でありました。

入館者数について各館においては常設展・特別展ともに大幅な増加が見られました。総入館者数は219万人を超え、昨年度比で約105％となりました。特に、自然史博物館の「ネコ展」や中之島美術館の「モネ展」では目標数値を大幅に超えるとともに、各館の常設展においても概ねコロナ禍前の水準に回復致しました。

また、本年度は各館の改修工事等を終え、機構となって初めて６館全てでお客様をお迎えできる年度となりました。４月12日に再開館した東洋陶磁美術館では、「シン・東洋陶磁―MOCOコレクション」が当初の目標を上回る145％の達成率を記録し、８月１日に再開館した科学館ではひと月で125,399人（昨年度：83,985人、前年比149％）の来館者を迎え地域活性化に大きな役割を果たしました。両館の再開により、中之島美術館をはじめとする中之島地区の東西の導線が繋がり、今後さらなる賑わいの創出が期待されると考えております。

約２年半に及ぶ大改修を終え2025年３月に再開した市立美術館においては、国の登録有形文化財である建物外観を保全しつつ、展示・収蔵環境の向上を図り、無料ゾーンや公園からアクセスできる新しいエントランスの設置等、現代にふさわしい「ひらかれた」ミュージアムとしての施設整備を実現しました。長い期間の休館となり市民の皆様には大変ご不便をおかけしましたが、再開した市立美術館の魅力を存分にご堪能頂ければと思います。

2025年４月より遂に「大阪・関西万博」が開幕し、当機構としても学芸員・総務系職員が一丸となって準備してきた「大阪博」を開催しております。この地を訪れる国内外の方々に、我々が持つ展示品やコンテンツを通じて、大阪の自然や歴史、文化・芸術、科学技術の素晴らしさを発信し、「都市の文化拠点」として貢献して参ります。

また11月には第73回全国博物館大会がこの大阪の地で開催されます。当機構が中心となり開催する本大会を通じて、全国の博物館関係者と積極的に協力・交流し成果を上げるとともに、博物館を取り巻く多くの社会課題の解決にも取り組んでいきたいと考えます。

2024年度は当機構の第２期中期計画期間（2024年４月～2029年３月）の初年度でございました。所期の計画は一定達成したものの、第２期の目標である６館一体の取組の実施や経営上のメリットを活かした法人運営、認知度の向上等について更に取組を進める必要があると考えております。そして市民の皆様に機構となった意義について認知して頂くとともに、当機構が所有する文化資源の積極的な活用を図り、人の集まる文化拠点として国内外の幅広い来館者を迎え、楽しみや賑わいの創出にも取り組み、大阪の都市格の向上に一層寄与していく所存であります。

引き続き、大阪市博物館機構並びに各館への皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

地方独立行政法人　大阪市博物館機構

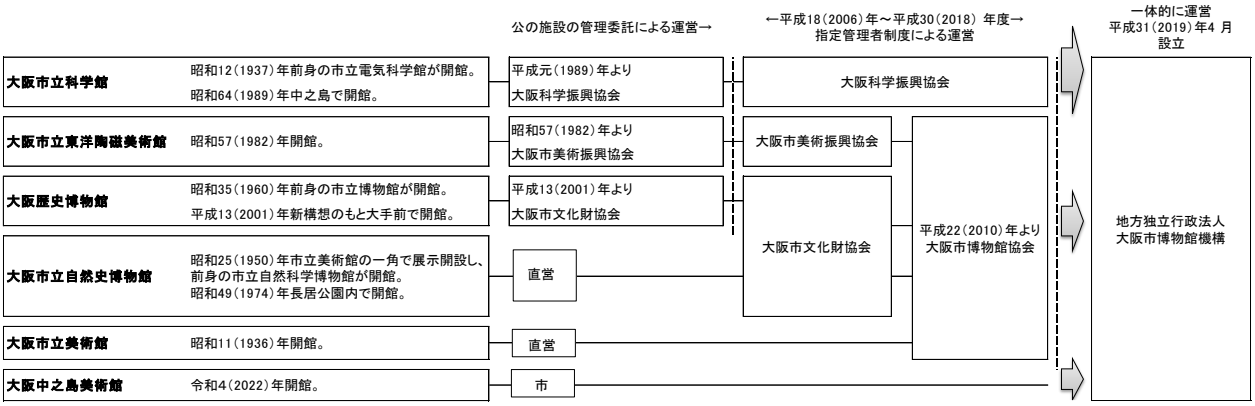
理事長　真鍋精志

Ⅰ. 組織

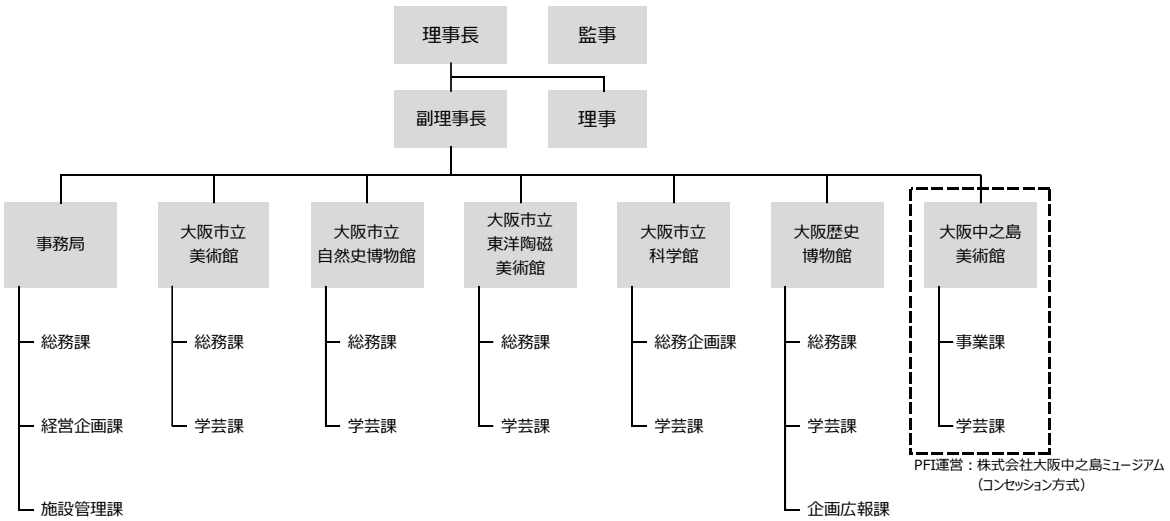
(1) 役員（令和６年４月１日現在）

理　事　長	真鍋　精志	理　　事	布谷　知夫
副理事長	三木　信夫	理　　事	山梨　俊夫
理　　事	佐藤　友美子	監　　事	西尾　方宏
理　　事	玉岡　かおる		

(2) 沿革



(3) 組織図



(4) 職員数（令和６年４月１日現在）

（人）

	事務局	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
事務職(技術職含む)	26	10	9	6	10	13	0	74
学芸職	0	11	14	7	12	19	12	75
計	26	21	23	13	22	32	12	149

II. 大阪市博物館機構のあらまし

【特徴】

地方自治体として初めての独立行政法人として博物館を運営し、美術、自然、陶磁器、科学、歴史、現代美術といった異なる分野の施設を一体管理しています。

【目的】

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、博物館及び美術館を設置し、歴史、美術、自然、科学及び科学技ｚに関する資料等を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、当該資料等に関する調査研究及び普及活動を通じて、市民の文化と教養の向上を図るとともに、学術の発展に寄与することを目的としています。

（定款第１条から）

【業務の範囲】

当機構は、上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行っています。

1. 博物館等を設置すること
2. 歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料、その他の資料（以下「博物館等資料」という。）を収集し、保管して公衆の観覧に供すること
3. 博物館等資料に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること
4. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究を行うこと
5. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びに前号の調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと
6. 市民の生涯学習の機会を提供すること
7. 博物館等資料を貸し出し、及び交換すること
8. 他の博物館等、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
9. 第１号の博物館等の運営に関する調査研究及び評価等を行うこと
10. 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと

（定款第16条から）

【各館の活動目的】

大 阪 市 立 美 術 館

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立自然史博物館

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指し、人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える事業を行っています。

大阪市立東洋陶磁美術館

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大 阪 市 立 科 学 館

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行っています。

大阪歴史博物館

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪中之島美術館

館の使命
「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」
「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」
「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットホームとなります。」
「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たすべく、大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施します。

III. 大阪市博物館機構の事業

(１) 各館の主な事業

（ア）博物館資料の収集・保管

購入・寄贈により資料を収集し、寄託による受け入れを行い、それらを適切に保管して将来へ継承します。（博物館資料には、歴史・美術・自然・科学・科学技術に関する実物・標本・現象に関する資料などが含まれます。）

館蔵品数 ※令和７年３月31日時点 （件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
8,687	2,090,468	5,758	2,270	149,860	6,619	2,263,662

※大阪市立自然史博物館及び大阪歴史博物館並びに大阪中之島美術館については点数

国宝・重要文化財数 ※令和７年３月31日時点 （件）

	大阪市立美術館		大阪市立東洋陶磁美術館		大阪歴史博物館		大阪中之島美術館	
	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品
国宝	1	5	2			2		
重文	18	114	13	0	671	55	1	

※大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館については点数

新収蔵品数（購入・寄贈含む） （件）

大阪市立美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
2	96,199	26	0	489	114	96,830

※大阪市立自然史博物館及び大阪歴史博物館並びに大阪中之島美術館については点数

修復作品数 （点）

大阪市立美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
3	0	3	0	4	10	20

（イ）博物館資料等に関する調査研究

博物館資料についての専門的な調査研究や、利用者調査をはじめとする博物館運営に関する調査・分析などを行います。

文部科学省科学研究補助金を受けて行った研究 （件）

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
6	15	3	2	9	35

※大阪中之島美術館については科学研費研究機関でないため除外

（ウ）博物館資料の展示

常設展では、展示替を行いながら館蔵品・寄託品などを公開します。また、各館で年数回の特別展の開催や大阪市立科学館ではプラネタリウムの投影などを行います。

各館観覧者数 （人）

	大阪市立美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
常設展		266,921	96,778	338,484	262,309		964,492
特別展・プラネタリウム	29,818	102,492	96,778	242,422	43,832	669,700	1,185,042

（エ）教育普及事業

講演会・展示解説・ワークショップ・観察会などの事業を通して、活動成果の公開と普及をはかります。

また、学校や教員と連携し、生徒・学生の利用を促します。ボランティア活動やNPO法人との連携により、館活動への参画機会を提供します。各館の特徴に応じた様々な事業を行っています。

（オ）事業の効果を高める業務

展覧会や教育普及事業において地域や関係団体、マスメディアなどと連携を取り、よりよい事業を構築します。

戦略的な広報により、効果的な情報発信を行います。障がい者や外国人をはじめ、だれもが利用しやすい博物館運営を行います。また、館の機能強化やサービス向上のため施設改修に取り組みます。

（２）事務局の主な事業

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努めています。

総 務 課

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限発揮できるよう、必要な体制整備や職員の育成や、内部統制などその他運営に関する事項について取組んでいます。

・職員の職能別・階層別の研修の実施

・人事評価制度の検討

経営企画課

大阪市博物館機構に所属する各館の持つ魅力をみなさまにお届けするために、広報活動や、講演会を実施しています。また、法人の適正な目標設定及び自己評価を行うために、中期計画及び年度計画の策定及び評価に関する規程等を整備しています。

また、大阪公立大学と教育、研究、社会貢献の分野で知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的連携事業を相互に協力して実施し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び学術文化の向上発展に寄与する事業など教育普及事業にも取組んでいます。

■広報

・ポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」や「大阪博」を多言語で運用し、展覧会情報等を掲載

・SNSによる展覧会情報の広報活動

Webサイト「大阪博」

■教育普及

①講座

・出前講座の実施：「見どころたくさん大阪市の博物館・美術館」（２回実施）

・ミュージアム連続講座：「『博覧会』と『芸術・科学』～想像と創造の力～」（３週連続）

・博学連携講演会：「『昭和』の大阪－都市の歴史、大学の研究－」

②大阪公立大学への出講

・博物館関連講義へ学芸員を派遣（通年実施：３講座）

③学校連携

・教員のための博物館研修「教員のための博物館の日」の実施

ミュージアム連続講座
チラシ

博学連携講演会
チラシ

施設管理課

美術館・博物館の快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行っています。また、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施しています。

IV. 各館の活動

大阪市立美術館

大阪市立美術館は、市民が優れた美術文化に接する機会を提供し、生活に潤いをもたらすとともに、美術家の活動を助成し、広く大阪の文化振興に資することを目的として、昭和11年５月に開館しました。美術館は天王寺公園の中に位置していますが、その敷地は住友家の本邸があった所で、美術館の建設を目的に庭園（慶沢園）とともに大阪市に寄贈されたものです。

美術館は設立当初の本館と、平成４年に美術館の正面地下に新設した天王寺ギャラリー（旧地下展覧会室）で構成されています。地上３階、地下２階からなり、本館展示室では、特別展や企画展示を開催しています。企画展示では購入や寄贈によって集まった日本・中国の絵画・彫刻・工芸など、約8,700件の館蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しています。これらの作品には国宝や重要文化財に指定された作品も多く含まれています。また、新館地下２階の天王寺ギャラリーでは、常時様々な美術団体が主催する公募展を開催しています。

本館３階には美術館に付設されている美術研究所があり、素描の実技研究など、教育普及活動を行っています。

■展示・公開

●特別展

当館は美術館としての機能強化、サービス・魅力向上をめざし、教育普及活動の場の確保も念頭に大規模改修計画を策定し、改修工事を行ってきましたが、この度約２年半の休館期間を経て、３月１日にリニューアルオープンいたしました。これを記念し、リニューアルオープン記念特別展を開催いたしました。本展では、館内の全フロアを特別展会場とし、絵画や書蹟、彫刻、漆工、金工、陶磁など分野ごとに選りすぐりの作品約250件を一堂に展観するとともに、これまであまりご紹介する機会のなかった「珍品」ともいえる作品も織り交ぜ、当館の「変わらぬ魅力と新たな魅力」をお伝えする特別展となりました。

（令和６年度：特別展）　（人）

期間	展示名称	観覧者数
３月１日～３月30日	リニューアルオープン記念特別展 What's New! 大阪市立美術館 名品珍品大公開!!	29,818

What's New!
大阪市立美術館　名品珍品大公開!!

■収集・保管・修理

絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入・寄託・寄附によって、作品の収集に努めています。年月を経て劣化した作品を将来にわたって保存し、継承していくために、展示室や収蔵庫の環境管理・データベース化・資料の状態を考慮しての修理などを行っています。

（令和６年度：寄贈作品数２件　寄託作品数７件　修復作品数３点）

■教育普及

来館者に探求心を抱き、感受性や創造性を育んでいただくために、日本・中国を中心とする政界諸地域の文化財について理解を深めるための手助けを行っています。学校との連携やボランティア活動への支援を行うともに、展覧会の講演会を行うことで、都市のコアとしてのミュージアムにふさわしい教育普及活動を実施しています。

（１）子ども向けワークシートの作成、ワークショップの開催
- 「What's New! 大阪市立美術館　名品珍品大公開!! 」にてファミリーデーを２回開催（26名参加）
- 美術館の館蔵品を用いて、「アート・カード」を作成

（２）美術研究所での指導
- 作品画像による添削を中心としたオンラインサポートを実施

（３）大学との連携
- キャンパスメンバーズ制度、講座への出講

■調査研究

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について調査研究を行い、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や、文化活動の助成金も活用しています。令和６年度の研究テーマを一部紹介します。

- 明清時代仕女図の生成および展開について
- 10世紀の敦煌絹本仏画における基底材の調査研究―仏画制作システムの解明
- 東アジア的視点から見た高麗青磁の総合的研究―産地、編年、流通、需要の諸様相
- 大陸説話集の利用をめぐって―絵画作例を中心に―

沿革

大正９年　（1920）	3月30日、市議会の決議により美術館設立が議決される
大正 10 年（1921）	12月、住友家が美術館建設を条件に茶臼山本邸寄付を大阪市に申し出る
昭和５年　（1930）	鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断
昭和９年　（1934）	美術館工事再開、外装工事が竣工
昭和 11 年（1936）	5月1日、大阪市立美術館開館　落成記念展は「改組第一回帝国美術展」
昭和 17 年（1942）	阿部コレクション中国絵画の寄贈を受ける陸軍による接収をうける
昭和 18 年（1943）	小西家旧蔵光琳資料の寄贈をうける
昭和 19 年（1944）	住友家より関西邦画展出品作の寄贈を受ける
昭和 20 年（1945）	第二次世界大戦終戦連合国軍による接収を受け、事務所を移転する
昭和 21 年（1946）	寄寓先の旧精華国民学校内に美術研究所を開く
昭和 22 年（1947）	美術館接収解除される
昭和 23 年（1948）	美術館での展示活動を再開する
昭和 26 年（1951）	博物館法の制定により教育委員会に移管される
昭和 52 年（1977）	山口コレクション中国仏教彫刻・工芸の譲渡を受ける（昭和53年度まで）
昭和 55 年（1980）	田万コレクションの寄贈を受ける
昭和 56 年（1981）	カザールコレクション漆工の譲渡を受ける（昭和59年度まで）
昭和 62 年（1987）	天王寺公園が有料化される南館の美術団体展展覧会場の一部が
	アベノベルタに移転し、それに伴い本館南館の一部が常設展示展会場となる
平成４年　（1992）	美術館正面 地下に展覧会室を新設し、南館とアベノベルタの美術団体展
	展覧会場を統合移転する。南館は常設展示会場となる
平成７年　（1995）	小野コレクション　中国石仏の譲渡を受ける（平成14年度まで）
平成 27 年（2015）	登録有形文化財（建造物）に登録される
令和４年　（2022）	大規模改修工事のため、休館（令和７年２月まで）
令和７年　（2025）	3月１日　リニューアルオープン

施設概要

規模・構成	地上３階、地下３階
延床面積	18,535.02㎡
展示面積	3,649.3㎡
収蔵面積	1,456.93㎡
展示室構成	17室（本館１階：９室、本館２階：８室）
地下展覧会室構成	４室（新館地下２階）
活動用諸室	アトリエ：本館３階 特別室：本館２階 じゃおりうむ：本館１階
その他諸室	事務室・学芸室・図録室・書庫ほか　本館地下１階

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館は人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、その変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知っていただく施設です。私たち一人一人が、自然界の構造や諸関係について、幅広い知識を持つことが大切な時代になってきました。自然の保全のためだけではなく、よりよい未来、そしてよりよい生活環境を実現するためにも、大切です。

自然史博物館では、こうしたテーマを「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」と題した４つの常設展示室、そして特別陳列や特別展を通して展示すると共に、年間80～100回程度開催される様々な観察会や講演会などの行事などを通じて様々な角度から、わかりやすく伝えていきたいと思っています。

■展示・公開

●常設展

常設展示では、人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示しています。また、テーマ展示・コーナー展示・ミニ展示といった小規模な企画展示も随時行っております。

（令和６年度：主な企画展示）

○テーマ展示

・「秋山知伸 世界の野生ネコ科動物写真展」　期間：7月13日～9月23日

・「化石を楽しむ」　期間：９月28日～10月27日

●特別展

国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催しています。

（令和６年度：特別展）　（人）

期間	展示名称	観覧者数	
２月23日～５月26日	自然史のイラストレーション　～描いて伝える・描いて楽しむ～	7,177	※
7月13日～９月23日	「ネコ」～にゃんと！クールなハンターたち～	90,134	
2月22日～5月６日	貝に沼る ー日本の貝類学研究300年史ー	5,181	※

※「自然史のイラストレーション」の観覧者数は令和６年度分（４月１日～５月26日）

※「貝に沼る」の観覧者数は令和６年度分（２月22日～３月31日）

自然史のイラストレーション

ネコ

貝に沼る

■収集・保管・修理

大阪市立自然史博物館では、自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理を行っています。

（令和６年度：主な寄贈コレクション）

・大淀町の岸田日出男旧蔵 植物標本　約200点

・華園力貝類コレクション　約6,000点

・林修甲虫コレクション　約63,000点

■教育普及

活動制度の公開と普及のため、自然観察会など多様な野外行事・講演会などを行っております。

（令和６年度：199回実施、計9,780人参加）

（１）講座・講演会・シンポジウム・野外行事など

・学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」の開催

・外部の学術団体などと連携したシンポジウムの開催

・YouTubeへの動画コンテンツの公開（9,824時間再生）

（２）子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施

・常設展・特別展でのワークシートの作成

・学校団体の遠足下見、説明会、相談対応

（３）学生への支援

・博物館実習を通じての学生への支援

・大学への講師派遣

■調査研究

大阪の周辺の自然についての調査や、自然のしくみ・おいたちについての基礎的な研究をしています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補補助金を活用しています。令和６年度の研究テーマを一部紹介します。

・市民科学者参加型きのこ「デジタル拡張標本」整備は新たなニーズを掘り起こすか？

・生活を取り巻く地質現象の市民調査と地質学リテラシー向上

・侵略的外来生物対応における不適合メカニズムと政策革新の社会的要因の解明

・超海洋パンサラッサ海における複合化石生層序と安定同位体比層序

沿革

昭和24年（1949）	自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年（1950）	市立美術館二階廊下において展示開設
昭和27年（1952）	博物館法第10条により登録（第２号）
昭和32年（1957）	市立美術館より西区靭２丁目（元靭小学校校舎改造）に移転
昭和33年（1958）	開館
昭和34年（1959）	新館建設について大阪市社会教育審議会の意見具申
昭和42年（1967）	大阪市総合計画局"30年後の大阪の将来計画"により長居公園内に新館敷地確定
昭和48年（1973）	自然史博物館建設工事竣工
	旧館閉館
昭和49年（1974）	自然史博物館開館式挙行
	開館
昭和61年（1986）	新装開館
平成13年（2001）	花と緑と自然の情報センター開館
平成16年（2004）	長居移転（自然史開館）30周年
平成18年（2006）	ナウマンホールリニューアル
平成19年-20年	第５展示室オープン
（2007-2008）	(第一期オープンは平成19年３月24日、第二期は平成20年４月26日)
平成26年（2014）	長居移転（自然史開館）40周年
令和６年（2024）	長居移転（自然史開館）50周年

施設概要

規模・構成	地上３階、地下１階	
延床面積	12066.01㎡	
展示面積	3831.24㎡	
収蔵面積	1,971.50㎡	
展示室構成	5室（１～2階）	
	ナウマンホール	550.35㎡
	第1展示室 身近な自然	360.55㎡
	第2展示室 地球と生命の歴史	486.64㎡
	第3展示室 生命の進化	403.10㎡
	第４展示室 自然のめぐみ	通廊展示
	第5展示室 生き物のくらし	360.55㎡
	2階ギャラリー	266.29 ㎡
	大阪の自然誌	638.82㎡
	ネイチャーホール	764.95㎡
活動用諸室	講堂・集会室・研究室・実験室・実習室	
その他諸室	書庫・事務室・会議室（１階）	

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園。大阪市立東洋陶磁美術館は、その緑に溶け込むように建っています。

この美術館は、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ21社（当時）から寄贈されたことを記念して大阪市が設立したもので、1982(昭和57)年11月に開館しました。館蔵品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、「李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクション」の韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈や、日本陶磁の収集などにより、東洋陶磁のコレクションとして世界第一級の質と量を誇っています。このなかには、２件の国宝と13件の重要文化財が含まれています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館蔵品の充実が進んでいます。

展示では、代表的な作品約400件によって中国、韓国、日本の陶磁などを独自の構成と方法により系統的に紹介しています。年１～２回の企画展、特別展では専門的なテーマのもとに、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示をめざしています。

作品の魅力をこころゆくまで鑑賞していただけるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台、紫励起LED照明など展示設備にもさまざまな工夫をこらしています。当館は東洋陶磁を中心とした質の高いコレクションを通して、美的体験の場を提供し、豊かな感性の育成と教養の向上に貢献していきます。

■展示・公開

●コレクション展

コレクション展では、安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示しています。特に、安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心にそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示しています。

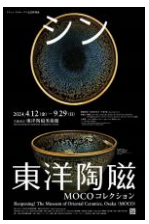
また、変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示も随時開催しています。（令和６年度観覧者数：96,778人）

●特別展

国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展を開催しています。

（令和６年度：特別展）　（人）

期間	展示名称	観覧者数
４月12日～９月29日	リニューアルオープン記念特別展 「シン・東洋陶磁―MOCOコレクション」	59,916
10月19日～３月30日	大阪市・上海市友好都市提携50周年記念 特別展「中国陶磁・至宝の競艶―上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」	36,862



シン・東洋陶磁

中国陶磁・至宝の競艶

■収集・保管・修理

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指すため、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行っております。

また、作品の保存・継承と、展示などによる効果的な活用を高めるため、状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行っております。

（令和６年度：寄贈作品数26件26点　寄託作品数０件０点　修復作品数３件３点）

■教育普及

来館者に豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たすため、展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催しています。

また、博物館学を開講する大学への見学実習の受入れや、館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援しています。

（１）教員やこども向けの研修・ワークショップ等への協力

・中学生以下の子どもとその保護者を対象とした「MOCOファミリースペシャルデー」を開催

・大阪大学学術総合博物館と連携して高校生向けのイベントを開催

（２）講演会・講義・レクチャーなど

・コレクションや展覧会に関する講演会などを開催（計４回）

（３）大学との連携

・キャンパスメンバーズ制度、講座への出講

■調査研究

国内外の関連研究機関との学術交流、海外への作品貸出などの展覧会協力を行うとともに調査研究活動を一層充実させ、世界における東洋陶磁の研究拠点としての役割を担っています。また、研究成果を展示や展覧会図録、各種普及活動に反映させています。これらの研究には李秉昌韓国陶磁研究基金のほか、科学研究費補助金など競争的資金も活用しています。令和６年度の研究テーマを一部紹介します。

・中国宋代天目茶碗に関する国際共同研究―東アジア的視点から見た日本伝世品の再評価

・唐時代における天王俑に関する基礎研究―西安地区を中心に

・17-20世紀中国における嗅ぎタバコの受容と変遷 – 鼻煙壺の研究を中心に –

・近世日本の喫茶文化の展開―天目碗の編年と使用を中心に―

沿革

昭和55年（1980）	住友グループ21社（当時）から安宅コレクション寄贈の申し出を受ける
	大阪市は中之島公園内に専門美術館を建設することを発表
昭和57年（1982）	11月6日 大阪市立東洋陶磁美術館開館式
昭和58年（1983）	「昭和57年照明普及賞」を受賞
昭和59年（1984）	「建築業協会賞」を受賞
平成8年（1996）	第1次李秉昌コレクション韓国陶磁121件の寄贈
平成10年（1998）	第2次李秉昌コレクション韓国陶磁100件の寄贈
	第3次李秉昌コレクション韓国・中国陶磁130件の寄贈
平成11年（1999）	新館開館式典
	「韓国陶磁研究奨学生」の募集開始(以後2007年まで毎年度募集)
平成12年（2000）	李秉昌記念陶磁資料室公開（～2010年まで。以後、作品収蔵スペースとして活用）
	第1次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか204件の寄贈
平成13年（2001）	第2次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか38件の寄贈
	第3次堀尾幹雄コレクション中国陶磁ほか23件の寄贈
平成17年（2005）	第4次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか11件の寄贈
平成20年（2008）	沖正一郎コレクション鼻煙壺1139件の寄贈
	沖正一郎鼻煙壺展示コーナー新設・公開
平成30年（2018）	第1次松惠コレクション日本陶磁ほか240件の寄贈
平成31年（2019）	第2次松惠コレクション日本陶磁ほか147件の寄贈
	辻井コレクション灯火具84件の寄贈
令和４年（2022）	２月７日 エントランス棟増築のため、長期休館
令和６年（2024）	４月12日 リニューアルオープン

施設概要

規模・構成	地上３階、地下１階	
延床面積	4,381.76㎡	
展示面積	1,032㎡	
収蔵面積	121.8㎡	
展示室構成	11室・2コーナー（1～3階）	
	1企画展示	110.2㎡
	2韓国陶磁	126.0㎡
	3韓国陶磁	70.0㎡
	4韓国陶磁□	92.3㎡
	5李秉昌コレクション韓国陶磁	193.5㎡
	6日本陶磁	102.6㎡
	7特集展示□	61.2㎡
	8現代陶芸	
	9中国陶磁	100.0㎡
	10中国陶磁（自然採光室）	47.0㎡
	11中国陶磁	110.0㎡
	12沖正一郎コレクション鼻煙壺	19.2㎡
	13現代陶芸□	
活動用諸室	講堂・研究室	
その他諸室	事務室・学芸室・会議室	

※8・13は展示コーナー

大阪市立科学館

大阪市立科学館は大阪市が市制100周年記念事業の一つとして計画し、関西電力株式会社からの寄贈申し出により実現の運びとなり、平成元年（1989）10月７日に開館しました。テーマは「宇宙とエネルギー」で、テーマとそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究を行っています。

各階ごとにテーマを設けた１～４階の展示場と、世界最新鋭の投影システムを導入したプラネタリウムを備えています。展示場では、 貴重な実物資料だけではなく、実際に体験できる体験型展示を展開し、お客様自身が楽しく科学に接することをとおして、使命である「科学を楽しむ文化の振興」をめざしてゆきます。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、１階から４階の各フロアで物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料を模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行っています。

（令和６年度実績）※８月１日～３月31日（リニューアル等工事のため７月31日まで全館休館）

・常設展示：観覧者数 338,484人

・サイエンスショー：演示回数677回　見学者数48,560人

●プラネタリウム

大阪市立科学館では、新しいプログラムを３か月に１本制作・投影しています。幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう、一般投影以外にも、ファミリータイム・学習投影など多種多様なプログラムを提供しております。

（令和６年度実績）※８月１日～３月31日（リニューアル等工事のため７月31日まで全館休館）

・プラネタリウム観覧者数：242,422人

演示名称	内容
一般投影A	「今夜の星空」の解説に加え、下記のテーマ解説を行っています。学芸スタッフ等による生解説が基本となっています。 投影回数：500回 観覧者数：86,400人 タイトル：「探れ！天の川の姿」、「オーロラに逢いにいこう」、「月世界への道」
一般投影B	当館オリジナル制作の全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等により「今夜の星空」の生解説と合わせて投影しています。 投影回数：396回 観覧者数：67,564人 タイトル：「まだ見ぬ宇宙へ」、「HAYABUSA２～REBORN」、「ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～」
ファミリータイム	幼児から小学校低学年までの子ども家族連れ（園団体を含む）向けの投影を行っています。 投影回数：299回 観覧者数：46,729人
学習投影	平日の学校団体専用の学習用プログラムの投影を行っています。 見学校：378校 投影回数：153回 観覧者数：26,935人
学芸員スペシャル	学芸員の専門・得意分野を生かした投影を行っています。 投影回数：78回 観覧者数：13,760人
特別投影	小学校高学年生とその家族を主な対象として、天体観察の方法などを解説します。ジュニア科学クラブ会員を同時に対象としています。 投影回数：２回
スペシャルナイト	天文学の普及と市民の生涯学習を目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を行っています。 ・「はやぶさ２以前、はやぶさ２以後」 12月７日　参加費1,000円　131人参加 ・「月の石ナイト」 ３月１日　参加費1,500円　250人参加 ・「月の石「リュウグウ」の石－太陽系の歴史を探る－」 ３月29日　参加費1,000円　240人参加

■収集・保管

物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っています。また、大学などとの連携を通じて観測器類・実験装置などの収集も行っています。

■教育普及

「本物、実物、生の現象」による体験、そして感動をより多くの方に届けるために様々な教育普及活動に力を入れています。

（１）講座・講演会・シンポジウムの開催

・実験教室・講座：天体観望会（全８回）、ジュニア科学クラブ（12回）、中之島科学研究所コロキウム（７回）、科学教室（８回）、講演会・シンポジウム（５回）、科学イベント（７回）、他多数
・展示場１階「みんなのサイエンス・ラボ」にて来館者向けのワークショップを実施
・学校団体専用の学習用プラネタリウムの投影
・出張サイエンスショー（小学校向け）：10 件

（２）学生への支援

・博物館実習の受入
・キャンパスメンバーズ制度、講座への出講

■調査研究

当館の運営テーマである「宇宙とエネルギー」を中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究を行っており、その研究成果を科学に関する資料の収集・保管・展示に反映させています。これらの研究には科学研究費補助金や文化庁補助金なども活用しています。令和６年度の研究テーマを紹介します。

・天文文化学の新展開：数理的手法の導入で文化史と科学論から自然観を捉える研究の加速
・全天画像・気象観測データと数値計算モデルの対応による観天望気への応用
・スマート望遠鏡による科学教育テキストの製作

沿革

昭和61年(1986)	関西電力（株）から大阪市制100周年に賛同し、関西の電気事業創業100年を記念して「科学技術館（仮称）」を建築して寄贈する旨申し出
平成元年(1989)	5月31日（大阪市立電気科学館 閉館） 10月7日 開館
平成２年(1990)	のべ 100万人来館
平成５年(1993)	第1次展示改装（第1期）オープン 12月25日 のべ 300万人来館
平成６年(1994)	第1次展示改装（第2期）オープン 第1次展示改装（第3期）オープン
平成９年(1997)	のべ 500万人来館
平成11年(1999)	第2次展示改装オープン
平成16年(2004)	プラネタリウム機器リニューアル
平成18年(2006)	のべ 1000万人来館
平成20年(2008)	第3次展示改装オープン
平成21年(2009)	オリジナル全天周映像「HAYABUSA-BACK TO THE EARTH-」完成・上映開始 開館20周年記念式典
平成23年(2011)	プラネタリウムホールプロジェクタリニューアル
平成25年(2013)	入館者1500万人達成
平成31年(2019)	光学プラネタリウム更新、展示場一部改装し、リニューアルオープン
令和４年(2022)	全天周映像システム更新、展示場一部改修 ８月27日 のべ2000万人来館
令和５年(2023)	第４次展示改装（全館休館 11月６日～７月31日）
令和６年(2024)	８月１日 展示場リニューアルオープン

施設概要

規模・構成	地上４階塔屋、地下１階建て	
延床面積	9,356.45㎡	
展示面積	3,156.3㎡	
収蔵面積	95.7㎡	
展示室構成	プラネタリウムホール	480.0㎡
	１階展示場	344.0㎡
	２階展示場	421.9㎡
	３階展示場	996.0㎡
	４階展示場	1,394.4㎡
	天体観測室	25.8㎡
活動用諸室	研修室・工作室・多目的室	
その他諸室	事務室・会議室	

大阪市立科学館
OSAKA SCIENCE MUSEUM

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、大阪に住む人たちをはじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した博物館活動を行っていきます。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざしていきます。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、古代から中世近世、近代現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などを通じて紹介しています。また、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催しています。

（令和６年度実績）

・常設展示：観覧者数262,309人

（特集展示一覧）

期間	展覧会名
３月６日～５月６日	再発見！秀吉の大坂城―金箔瓦と家紋瓦―
５月８日～７月８日	―わたしが難波橋のライオン像をつくりました！！― なにわの彫刻家・天岡均一没後100年記念展
７月10日～９月２日	新収品お披露目展
９月４日～10月28日	新発見！なにわの考古学2024
10月30日～12月23日	心斎橋ときもの ―小大丸260年のあゆみ―
12月25日～２月17日	稲作民俗事始め―米をつくる技術、米がつくる文化―
２月19日～４月14日	泉布観－大阪最古の洋風建築－

秀吉の大坂城

天岡均一

新収品お披露目展

なにわの考古学2024

心斎橋ときもの

稲作民俗事始め

泉布観

●特別展・特別企画展

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催しています。

（令和６年度：特別展）　（人）

期間	展覧会名	観覧者数	
４月19日～６月３日	特別企画展「おおさか街あるき―キタ・ミナミ―」	33,206	※
７月５日～８月26日	特別展「難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮－古代日本のターニングポイント－」	14,671	
10月５日～12月２日	特別展「川瀬巴水　旅と郷愁の風景」	29,161	
１月11日～３月３日	特別企画展「発掘！大名たちの蔵屋敷－「天下の台所」に集う米・物・人－」	38,392	※

※特別企画展の観覧者数は、会期中の常設展観覧者数

おおさか街あるき

大化改新の地、難波宮

川瀬巴水

発掘！大名たちの蔵屋敷

■収集・保管

郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民のみなさまに紹介し、理解を深めることを方針とし、この趣旨に沿って歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、寄贈及び寄託の受け入れを継続的に行っています。

（令和６年度：寄贈作品数337件489点　寄託作品数０件０点）

■教育普及

「都市おおさか」の歴史と文化を市民のみなさまに紹介するため、様々な事業を行っています。

（１）講座・講演会・シンポジウムの開催

・なにわ歴博講座

・展覧会と関連した講演会等の開催

（２）学校・学生への教育支援

・大阪市教育センターとの連携による教員研修の実施

・学芸員資格の取得を目指す実習生の受入れおよび見学実習の受入れ

・大学への出講

（３）こども向け普及事業の開催

・わくわく子ども教室

（ふわふわの綿花からタネを取り出そう！、戦国武将のお面を作ろう、凧づくりと凧あげ等）

■調査研究

当館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」を実現するため、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について調査研究を実施しています。また、これらの研究には科学研究費助成事業等も活用しています。令和６年度の研究テーマを一部紹介します。

・日本列島と朝鮮半島南部の初期都市の比較研究-「国」を越えた社会基盤形成の解明

・京金工・大月光興の研究-「文人金工」像の確立のために

・産業マップ作成による江戸・大坂の産業分布構造のモデル化

沿革

大阪市立博物館（前身）

昭和4～6年（1929～31）	大阪城天守閣とともに、第四師団司令部建設のため市民の募金、6年に竣工
	後に中部軍司令部、終戦後は駐留軍施設として利用
昭和23年（1948）	旧第四師団司令部を大阪市警本部として返還
昭和33年（1958）	府警から市へ建物返還。市制70周年記念事業として旧第四師団司令部の
	歴史博物館への転用構想まとまる
昭和35年（1960）	5月　博物館創設事務室設置。館蔵品ゼロからのスタート
	12月　第1期工事完了、１階開館。第１回特別展「桃山文化展」開催
昭和37年（1962）	第2期工事完了、全館開館。記念特別展「大阪の名宝」開催
昭和51年（1976）	文部省の科学研究費を申請できる学術研究機関の指定を受ける
平成元年（1989）	有料入館者320万人突破
平成12年（2000）	最後の展覧会「開館40周年記念特別展 博物館ものがたり―市民と歩んだ40年・そして未来へ―」開催
平成13年（2001）	閉館

大阪歴史博物館

昭和60年（1985）	大阪市が「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」を発表
昭和62年（1987）	４月　NHKと大阪市が大阪放送会館の旧大阪市中央体育館北側敷地への移転合意。
	7月　発掘調査開始（平成2年まで）し、5世紀代と前期難波宮にかかる倉庫群を発見
平成3年（1991）	遺構群を保存する方針を決定し、大阪市考古資料センター（仮称）の設置を決定
平成6年（1994）	旧大阪市立中央体育館跡地での考古資料センターと新博物館の建設を発表
平成9年（1997）	「（仮称）NHK大阪新放送会館および大阪市立新博物館・考古資料センター」の建設工事が着工
平成13年（2001）	大阪歴史博物館条例公布、建物竣工
	大阪歴史博物館開館

施設概要

規模・構造	地上13階・地下3階建て		
延床面積	23,606.54㎡（専有部） 18,989.08㎡（共有部）		
展示面積	4,118.04㎡（常設展示） 892.64㎡（特別展示）		
収蔵面積	2,188.11㎡		
展示室構成	10階	難波宮の時代	1,219.37㎡
	９階	大坂本願寺の時代	1,161.34㎡
		天下の台所の時代	
	８階	特集展示	196.99㎡
		歴史を掘るなど	486.24㎡
	７階	大大阪の時代	1,054.10㎡
	６階	特別展示室	892.64㎡
	地下1階	保存遺構見学室	1,890.00㎡
活動用諸室	研修室・講堂・学習情報センター『なにわ歴史塾』		
その他諸室	研究室・会議室・事務室		

大阪中之島美術館

令和４年２月２日、大阪の中核であり、水都のシンボルである中之島に中之島美術館が誕生しました。平成２年に準備室が設置されてから30年もの年月が過ぎ、めざすべき美術館像は時代の流れの中で変わっていきました。

では、21世紀に誕生する美術館は、今、そして未来の大阪、日本、世界において、どのような役割を担うべきなのでしょうか。大阪中之島美術館は、下記のビジョンを掲げます。

１ 歴史をつなぎ、未来を創造する

美術館の基本を「いま」に結び、「これまでにない」をめざすこと

19世紀後半から現代までの美術とデザインを専門とし、収集・保存、調査・研究、展示・公開・普及という美術館の本格的機能を果たすと共に、既存の枠にとらわれない大阪の進取の精神にならい、新しい創造活動を発掘し、支えます。

２ 情報や知識、発見や感動の循環をうながす

美術館の扉を開くだけに留まらない。さらに先へ、進みひらいていくこと

誰でも気軽に立ち寄ることができる「パッサージュ（遊歩空間）」を中心に、魅力的な「場」として、知識や経験が交わる「機会」を生み出す美術館として、情報・人的資源の芽を育み、社会へと送り出し、その循環と活用を促進します。

３ つながりを原動力とする

「足りないこと」を可能性としてとらえ、手をとり合う相手を探すこと

多様な第三者との連携によって機能や事業の発展を図る「協働する美術館」、市民と共に学び合う「共育する美術館」として、大阪・中之島をはじめ、さまざまなコミュニティの一員として社会と共に変化し続けます。

４ 大阪に貢献する

大阪の「これまで」を活かし、世界に「これから」を発信し、中之島にて、ひと・こと・ものが、歩みを共にすること

大阪の歴史が培ってきた文化的土壌に根を下ろし地域文化を育み、中之島の芸術文化ゾーンの中心的かつ大阪の新しいシンボルとなる美術館として、大阪から全国へ、また世界に向けて、人々の心を動かす創造力を発信します。

■展示・公開

●展覧会

近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催しています。コレクションは、洋画、日本画、海外の近代絵画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなどの領域にわたります。とりわけ佐伯祐三の名作、モディリアーニの裸婦像、具体美術協会のリーダー・吉原治良の作品、海外作家の代表作などは、国内外で高く評価されています。

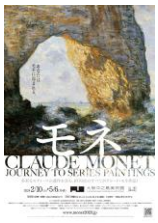
（令和６年度実績）　　（人）

期間	展示名称	観覧者数	
2月10日～５月６日	モネ　連作の情景	218,775	※
3月９日～5月６日	没後50年　福田平八郎	41,603	※
５月25日～８月18日	没後30年　木下佳通代	23,429	
６月15日～８月25日	開創1150年記念　醍醐寺　国宝展	56,510	
9月14日～12月１日	塩田千春　つながる私（アイ）	115,591	
9月14日～12月８日	開館３周年記念特別展 TRIO　パリ・東京・大阪　モダンアート・コレクション	96,572	
12月21日～２月24日	歌川国芳展 －奇才絵師の魔力	89,814	
12月21日～３月２日	Space In-Between：吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン	15,317	
3月20日～６月22日	大カプコン展－世界を魅了するゲームクリエイション	9,415	※
３月29日～６月１日	生誕150年記念　上村松園	2,674	※

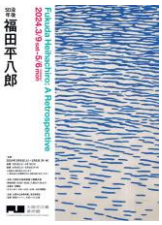
※「モネ」「福田平八郎」の観覧者数は、令和６年度分（４月１日～５月６日）

※「大カプコン展」の観覧者数は、令和６年度分（３月20日～３月31日）

※「上村松園」の観覧者数は、令和６年度分（３月29日～３月31日）



モネ　連作の情景



福田平八郎

木下佳通代

醍醐寺　国宝展

塩田千春　つながる私

TRIO

歌川国芳展

Space In-Between

大カプコン展

上村松園

■収集・保管

19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術作品を核としながら、地元大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向け、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。またアーカイブ情報室を設置し、美術館の情報資源として作品を長期保存しています。

（令和６年度：購入作品数６件６点　寄贈作品数66件108点）

■教育普及

美術とデザイン作品を楽しみ、想像力を高めることができるプログラムを、様々な専門機関と連携して企画・実施します。

（１）　講演会・シンポジウム・トークショーなど

・展覧会ごとに関連する講演会やワークショップ等を実施

（２）　子ども向けワークシートの作成・ワークショップの提供

・ナッカキッズ・ワークシート（美術館の紹介と展覧会の鑑賞ガイド）をHPにて公開

・ナッカキッズ・コミュニケーションプログラムを提供

沿革

昭和58年（1983）　大阪市制100周年記念事業基本構想の一つ（近代美術館の建設）
平成2年（1990）　近代美術館建設準備室設置
平成16年（2004）「心斎橋展示室」開設
平成24年（2012）「心斎橋展示室」閉室
平成25年（2013）　２月　中之島に新しい美術館を整備することを、戦略会議で決定
６月　市立美術館と新美術館の「建物の統合」は行わず、東洋陶磁美術館を含めた３館について「経営統合」を目指すことを戦略会議で決定
平成26年（2014）　戦略会議において「新美術館整備方針（案）」の内容を確認し、2020年度までの開館をめざすことを決定
平成28年（2016）　施設整備は公共で実施し、運営にPFI手法を導入する方針を決定
平成29年（2017）　公募型設計競技（設計コンペ）により設計者を選定
平成30年（2018）　美術館の名称が公募により「大阪中之島美術館」に決定
平成31年（2019）　３月　公募型プロポーザルによりVIデザイナーを選定
４月　地方独立行政法人大阪市博物館機構設立
６月　大阪中之島美術館の運営におけるPFI事業の実施方針の公表。特定事業の選定及び募集要項等の公表
令和2年（2020）　２月　PFI事業の優先交渉権者の公表
４月　株式会社大阪中之島ミュージアムと公共施設等運営権実施契約を締結
令和3年（2021）　株式会社大阪中之島ミュージアムに公共施設等運営権を設定
令和4年（2022）　２月２日　開館
令和6年（2024）　２月15日　展覧会来場者数 累計100万人を達成

施設概要

規模・構造	地上５階建	
延床面積	17,305㎡	
展示面積	3,148㎡	
収蔵面積	2,044㎡	
展示室構成	３室（４階、５階）	
	４階　展示室１	682㎡
	展示室２	733㎡
	５階　展示室３	591㎡
	展示室４	733㎡
	展示室５	409㎡
活動用諸室	ワークショップルーム・アーカイブ情報室・芝生広場 調査研究室・研究資料室・展覧会準備室	
その他諸室	事務室・会議室・打合せ室	

Ⅴ. 資料

■決算報告書（令和６年４月１日～令和７年３月31日）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 （決算－予算）
収入			
運営費交付金収入	2,874	2,874	0
施設整備費補助金収入	1,082	4,833	3,751
事業等収入	617	734	117
寄附金等事業収入	1,038	1,483	445
計	5,611	9,924	4,313
支出			
業務費	964	1,011	47
一般管理費	1,271	1,152	▲119
人件費	1,261	1,266	5
施設整備費補助金支出	1,082	4,833	3,751
寄附金等事業費支出	10	147	137
機構戦略費	1,023	979	▲44
計	5,611	9,388	3,777

Ⅵ. 大阪市博物館機構からのお知らせ

寄 附

ご寄附のお願い

大阪市博物館機構では、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館を運営し、歴史・美術から自然・科学に至るまで、多様な分野において、それぞれの専門性を活かしながら、展示や調査研究など、博物館活動の充実に努めております。

市民の皆さまをはじめ、より多くのお客様にお越しいただける魅力あるミュージアムづくりのために皆さまのご支援をお願いいたします。大阪市博物館機構へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄附金として税制上の優遇措置の対象となります。

▶所得税の優遇措置

「寄附金額」または「総所得金額等の40%相当額」のいずれか低い金額から2,000円を除いた額が所得額から控除されます。

▶個人市民税の優遇措置

・大阪市に在住の方の寄附金税額控除

市民税の基本控除額 （寄附金額（※注１）－2,000円）×８％

※注１ 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶個人府民税の優遇措置

・大阪市・堺市に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額（※注２）－2,000円）×２％

・大阪府（大阪市・堺市を除く）に在住の方の寄附金税額控除府民税の基本控除額（寄附金額（※注２）－2,000円）×４％

※注２ 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶法人税

寄附金額と損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

詳しくは、国税庁ホームページの・タックスアンサーNo.5283 特定公益増進法人に対する寄附金をご確認ください。

キャンパスメンバーズ

６つの博物館・美術館を管理運営する大阪市博物館機構と、大阪城天守閣を管理運営する大阪城パークマネジメント株式会社、大阪市立住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」を管理運営する大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体は、７つの施設での大学生等による利用促進を図るため、「キャンパスメンバーズ」制度を設けています。

本制度は、大学・短期大学・専修学校・各種学校・高等学校を単位とし、学生・生徒等のみなさまに、博物館施設の常設展を無料で観覧できる等のサービスを提供するもので、活力ある地域社会の創造及び学術文化の向上発展に向けた人材育成に貢献します。

Osaka Metro　　谷町線・中央線「谷町四丁目駅」２号・９号出口
大阪シティバス　「馬場町」バス停前

▼大阪市博物館機構HP

▼Webサイト「大阪博」

地方独立行政法人　大阪市博物館機構年報
【2024年度】
令和７年８月
編集・発行：地方独立行政法人　大阪市博物館機構ⓒ

〒540-0008　大阪市中央区大手前４-１-32　大阪歴史博物館内
電話：06-6940-4330　https://ocm.osaka